

# 第78回 夏期阿波人形浄瑠璃大会

Re. あわ文化「泣いて、笑って、唸る、今なお、受け継がれていく魂の芸能」

20 土曜

9:30~9:45	阿波木偶「三番叟まわし」	阿波木偶箱まわし保存会
9:55~10:25	恋女房染分手綱 重の井子別れの段	太夫:吉本藍玉 三味線:竹本友和嘉 人形:鳴門座
10:35~11:05	本朝廿四孝 奥庭狐火の段	太夫:後藤としこ 三味線:鶴澤友輔 ツレ:木内千陽 人形:あわ芸座
11:15~12:00	義太夫節メドレー	友成会、友輔会、友和嘉会、喜笑会
12:10~13:10	人形浄瑠璃とオペラ	コーディネーター:榊原徹 ソプラノ:小川典子 太夫:竹内雅代(伊達娘恋緋鹿子)、新田光香(曾根崎心中) 三味線:鶴澤友輔 人形:ふれあい座(伊達娘恋緋鹿子)、あわ芸座(曾根崎心中)
13:20~13:50	恋女房染分手綱 重の井子別れの段	太夫:竹本友代 三味線:鶴澤友丸 人形:城北座
14:00~14:48	絵本太功記 尼ヶ崎の段	太夫:竹本友廣 三味線:鶴澤友輔 人形:中村園太夫座
15:00~15:30	傾城阿波の鳴門 順礼歌の段	太夫:新居和昇 三味線:豊澤町若 人形:阿波十郎兵衛座
15:40~16:20	傾城阿波の鳴門 十郎兵衛内の段スペシャルバージョン	(阿波路会)太夫:竹本友和嘉 三味線:鶴澤友勇 人形:鳴門座、ふれあい座、平成座、あわ芸座、勝浦座、青年座、とくしま座の有志一同

21 日曜

9:30~9:42	えびす舞	寄井座ジュニア
9:50~10:10	傾城阿波の鳴門 順礼歌の段	太夫:宮崎照美 三味線:鶴澤友丸 人形:川内中学校民芸部
10:20~10:35	伊達娘恋緋鹿子 火の見櫓の段	太夫:竹本友幸 三味線:鶴澤友春 人形:平成座ジュニアクラブ、川内北小学校人形浄瑠璃クラブ
10:45~11:15	傾城阿波の鳴門 順礼歌の段	太夫:澤田芽衣 三味線:竹本友和嘉 人形:ふれあい座
11:25~11:55	生写朝顔話 宿屋の段	太夫:佐中かをり 三味線:竹本友和嘉 人形:勝浦座
12:05~12:35	生写朝顔話 大井川の段	太夫:長野紫寿 三味線:竹本友和嘉 人形:勝浦座
12:45~13:05	講 談	田辺銀冶
13:15~13:45	傾城阿波の鳴門 順礼歌の段	太夫:藤田泰毅 三味線:竹本友和嘉 人形:名月座
13:55~14:15	落 語	立川晴の輔
14:25~14:45	壺坂観音霊験記 沢市内の段	太夫:久次米三枝子 三味線:鶴澤友丸 人形:寄井座
14:55~15:25	壺坂観音霊験記 山の段	太夫:宮崎照美 三味線:鶴澤友丸 人形:寄井座
15:35~15:50	トーク	講談:田辺銀冶 落語:立川晴の輔 浪曲:玉川奈々福 トーク進行 太夫:竹本友和嘉
16:00~16:30	傾城阿波の鳴門 順礼歌の段	太夫:竹本友希 三味線:鶴澤友春 人形:平成座
16:40~17:00	浪 曲	玉川奈々福 曲師:広沢美舟
17:10~17:20	三番叟(フィナーレ)	太夫:竹内雅代、城北高校民芸部 三味線:鶴澤友輔、城北高校民芸部 人形:青年座、ボラリス座、城北高校民芸部 友情出演:川内中学校民芸部

第78回夏期阿波人形浄瑠璃大会

The 78th Summer Awa Ningyo Joruri festival



泣いて、笑って、唸る、  
今なお、受け継がれていく  
魂の芸能

Re.  
あわ文化

7月  
20 土曜  
(開場9:00-開演9:30-終演16:20)

21 日曜  
(開場9:00-開演9:30-終演17:20)

あわぎんホール  
(徳島県郷土文化会館)  
1Fホール

# 人形浄瑠璃とオペラ

人形浄瑠璃と西洋音楽であるオペラ。二つの芸能を見比べてみると人間の普遍的精神が垣間見えてきます。どちらにも共通するのが、愛や哀しみなど人間にとってあたり前にある感情を激しく揺さぶる芸能であること。人形浄瑠璃やオペラが初めての方も楽しめるよう、見どころをコーディネーターがご案内しながらお届けします。

## プログラム

- 1 伊達娘恋緋鹿子**(だてむすめこいのひがのこ) **火の見櫓の段**  
三味線:鶴澤友輔 太夫:竹内雅代 人形:ふれあい座
- 2 G.F.ヘンデル／オペラ《セルセ》より「オンブラ・マイ・フ(優しい木陰)」**  
G.F.Haendel /“Ombra mai fu“ from Opera <serse>  
**F.v.スッペ／オペレッタ《ボッカチオ》より「恋はやさしい野辺の花よ」**  
F.v.Suppe /“Hab'ich nur deine Liebe“ from Operetta <Boccacio>
- 3 曾根崎心中**(そねざきしんじゅう) **天神森の段**  
三味線:鶴澤友輔 太夫:新田光香 人形:あわ工芸座
- 4 プッチーニ／オペラ《ジャンニ・スキッキ》より「私のお父さん」**  
G.Puccini / “O mio babbino caro” from Opera <Gianni Schicchi>  
**ドヴォルザーク／オペラ《ルサルカ》より「月に寄せる歌」**  
A.Dvorjak / Měsíčku na nebi hlubokém from Opera <Rusalka>

**神原 徹** Sakakibara Toru | コーディネーター

東京都出身。東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。大学卒業後1989年4月に西ドイツベルリン市に渡独。演奏と指揮を研鑽しながらヨーロッパ各地で演奏を重ねる。ベルリンの壁崩壊、ドイツ再統一など激動の時代を体験し、マスコミ、市内ガイドなどの分野まで経験して1991年帰国。帰国後は、オペラ、バレエなどの舞台芸術の分野で、指揮とプロデュースを中心に、国内外にて活動し、個人、団体にて受賞歴も多数。洋楽と共に、能、文楽、歌舞伎など伝統芸能との共演やプロデュースも多く、現代邦楽の分野においては、文化庁芸術祭参加をはじめ、国家プロジェクトへの参加も多数行なっている。徳島出身の作曲家である故三木 稔を義理の父に持ち、彼の作品においては、オペラ、コンサートを問わず初演の指揮、アシスタントを多く務め、プロデューサーなどを多数行っている。現在(公財)神奈川フィルハーモニー管弦楽団常務理事・音楽主幹、現代邦楽団体オーラJ指揮者。

**小川 典子** Ogawa Noriko | ソプラノ

相愛大学音楽学部声楽学科を首席で卒業後、同大学研究科修了。同学部演奏助手を務めたのち、2001年から2007年12月までイタリア留学。イタリア国立ヴェネツィア“ベネデット・マルチェッロ音楽院”声楽学科ポスト・ディプロマ課程修了。アレツツォ“Nuovi Orizzonti 2006”第1位。ベルゴラ劇場(フィレンツェ)、マリプラン劇場(ヴェネツィア)、アルセナーレ劇場(ヴェネツィア)等でオペラ、宗教曲のソリストとして出演。2017年、アンドレア・ニコリ作曲、ソプラノソロとオーケストラによる現代室内楽曲(Le chant du feu)の初演がイタリアARS PUBLICA社より発売された。2019年・2024年、久留米市文化センター共同ホールにてリサイタルを開催。第15回とくしま芸術文化奨励賞受賞。2024年2月、あわぎんホールにて受賞記念リサイタルを開催。これまでに、中津史子、荘田作、佐藤康子、ステッラ・シルヴァ、モニカ・ベンヴェヌーティの各氏に師事。

**三村 加奈** Mimura Kana | ピアノ

国立音楽大学器楽学科(ピアノ)卒業。鳴門教育大学大学院修了。県内外にて幅広く演奏会に出演、オペラ全幕公演のピアノ演奏を務める等、声楽、器楽、合唱の伴奏ピアニストとして活躍中。現在、徳島バレエ研究所バレエピアニスト、徳島県立名西高等学校音楽科非常勤講師、男声合唱団「潮」、女声合唱団「うたすずめ」伴奏ピアニスト。徳島市の自宅にて後進の指導も行っている。神山町出身。

**鶴澤友輔** Tsuruzawa Tomosuke | 三味線／人形浄瑠璃構成

東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業。人間国宝鶴澤友路に師事。第22回国民文化祭・とくしま2007年に瀬戸内寂庵原作「義経街道娘恋鏡」「モラエス恋遍路」の作曲・演奏を、2012年に「阿波の心」の作曲と 弾き語りを担当。他にも「四国遍路を世界遺産に」応援曲「夢・空海」や、徳島県警の依頼による「警 醒電話鳴るとオレオレ詐欺の段」などの作曲も手がける。2001年には徳島県文化協会の芸術文化奨励 賞を受賞。2006年阿波文化創造賞受賞。2019年モラエス賞特別賞受賞。文化庁芸術祭参加作品CD「モラエス恋遍路」を日本伝統文化復興財団より全国発売。

太夫:竹内雅代(伊達娘恋緋鹿子)、新田光香(曾根崎心中)、人形:ふれあい座(伊達娘恋緋鹿子)、あわ工芸座(曾根崎心中)

# 語り芸トーク かく語りき、 芸能の骨格

## プログラム

浄瑠璃を語る、講談を読む、落語を噺す、浪曲を唸る…日本にはさまざまなカタチの語り芸があります。物語の語り手が紡ぐ言葉は想像力を刺激し、聴き手の脳裏に絵を描き出し、映像を映し出します。常に“明るく照らされた”現代社会だからこそ、もしかしたら私たちはそんな刺激を求めているのかも知れません。今回は、第一線で活躍する語り手の皆さまに、自らが携わる「語りのカタチ」…その聴きどころと観どころなどを“語って”いただきます。

講談 田辺銀冶

落語 立川晴の輔

トーク

浪曲 玉川奈々福 曲師:広沢美舟

**田辺 銀冶** Tanabe Ginya | 講談

幼少より“髭の講談師”田辺一鶴に入門。高校卒業後、数々の海外遊学を敢行し、師没後2010年 母・田辺鶴英門下へ。2011年 ニツ目昇進。義太夫節を学ぶべく竹本駒之助に師事。2021年 真打昇進。古典講談と共に数々の新作講談を口演。代表作は「講談・古事記」シリーズや「北斎の娘 葛飾応為」。講談文化の価値を今に発信するべく、ナレーションほか講談以外のジャンルでも言葉をベースにした様々な試みに積極的に挑んでいる。

**立川晴の輔** Tatekawa Harenosuke | 落語

1997年 立川志の輔に入門。2003年 ニツ目に昇進。志の吉を拝名。2008年 東西若手落語家コンペティショングランドチャンピオン。2013年 真打に昇進。志の吉から晴の輔へ改名。古典落語をわかりやすく演じる語り口に定評があり、東京、横浜、町田、千葉、川越の独演会をベースに全国各地での落語会、子ども落語会、企業講演、テレビ・ラジオ番組出演やナレーションなど幅広く活動中。▼日本テレビ『笑点』大喜利メンバー。▼ニッポン放送『週刊なるほど!ニッポン』パーソナリティ、全国38局ネット(四国放送土曜9:00~)で放送中。

**玉川 奈々福** Tamagawa Nanafuku | 浪曲

1994年 日本浪曲協会主宰三味線教室に参加。1995年 二代目玉川福太郎に曲師として入門。のちに師の勧めにより浪曲師として活動。2006年 芸名を美穂子から奈々福に改め名披露目。様々な浪曲イベントのプロデュース、他ジャンルの芸能・音楽との交流も多岐にわたって行う。平成30年度文化庁文化交流使としてイタリア、スロベニア、オーストリア、ハンガリー、ポーランド、キルギス、ウズベキスタンの七か国で、さらに中国、韓国、アメリカでも公演を行っている。第11回伊丹十三賞受賞。「浪花節で生きてみる!」語り芸パースペクティブ(編著)などの著作がある。

**広沢 美舟** Hirozawa Mifune | 曲師

義太夫節から三味線に興味を持ち、偶然入った木馬亭で師・沢村豊子の演奏に出会い、浪曲に魅せられる。2015年5月に日本浪曲協会主催の三味線教室に通い、翌6月に沢村豊子に入門。2016年 木馬亭で初舞台。気鋭の曲師として注目を集めている。

**竹本 友和嘉** Takemoto Tomowaka | 太夫／トーク進行

豊澤町子に師事し、1976年 初舞台。1996年 鶴澤友路師匠(人間国宝)に入門し、1997年 竹本友和嘉を名乗る。2007年 東京国立劇場の「阿波の芸能」人形浄瑠璃公演。2013年 東京・国立演芸場での女流義太夫演奏会に出演するほか、数多くの海外公演にも参加。また小中学校対象の「義太夫節のワークショップ」をはじめ、十郎兵衛屋敷での義太夫教室や阿波路会を開催している。2002年 人形浄瑠璃因協会奨励賞、2009年 人形浄瑠璃因協会女子部門奨励賞、2017年 とくしま芸術文化奨励賞を受賞。重要無形文化財(総合認定)保持者。

